

上伊那教育会 公益社団法人 認定 10周年記念式典

◇期日：令和4年11月26日（土） ◇場所：上伊那教育会館 講堂



◇ 記念式典 ◇

開会の言葉	土橋浩一郎	実行委員長
会長挨拶	浦山 哲雄	会長
来賓祝辞	北原 和俊	様
来賓紹介	原 浩範	副会長
合唱「仰望」	※ビデオ視聴	
閉式の言葉	土橋浩一郎	実行委員長



土橋浩一郎 実行委員長

◇浦山哲雄 上伊那教育会長あいさつ

校庭の木々もすっかり葉を落とし、冬の気配を感じる頃となりました。

本日、ここに公益社団法人認定10周年記念式典を開催するに当たりまして、平成20年度上伊那教育会会長 北原和俊様を始め、多くのご来賓の皆様方にご臨席を賜り、また、会員の皆様方のご参加をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

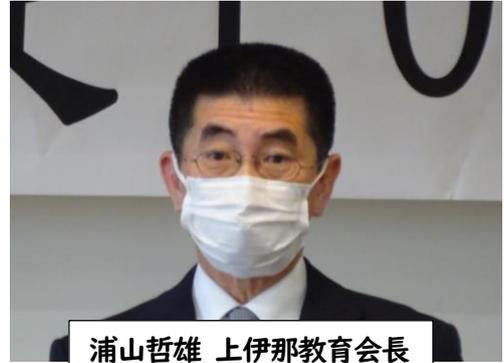
上伊那教育会は、平成24年度より公益社団法人としてスタートいたしました。平成20年度より公益社団法人認定に関わる準備が始まり、そこから非常に多くの方々のご尽力があったとお聞きしております。教職員の資質向上、児童生徒の健全な育成を目指すことはもちろんのこと、地域社会の文化発展にも寄与する団体として、その責務を果たすべく、この10年間、取組を進めてまいりました。

しかし、この3年間、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、教育会事業を思うように進められない状況が続いてきました。令和2年度は、8月まで一切の事業の中止を余儀なくされました。その後、令和3年度の総研修会「仰望の日」を初めてオンラインで開催したり、人数制限など規模を縮小したりしながら、事業を開催してまいりました。こうした中であっても、「初めに子どもありき」「限りない土着性の追求」「たゆまぬ教師の研鑽」という上伊那教育会の基本理念を根本におき、今できることは何かを考えながら進めてきているところであります。

本日は、この式典のあと記念座談会「あれから10年 これから10年」が計画されています。公益社団法人認定に向けての思いを振り返り、お話いただく中で、私たちが当時の思いを知り、受け継ぎ、つないでいくこ

と、そのことに大きな意味があると考えます。そして、この10年間の取組に思いを馳せ、今後の上伊那教育会のあり方について考える機会としていきたいと思っております。

終わりになりますが、ご参会の皆様方には、今後とも上伊那教育会への温かなご理解とご協力を賜りますようお願いいたしまして、会長あいさつとさせていただきます。



浦山哲雄 上伊那教育会長

◇来賓祝辞 北原和俊 様

皆さんこんにちは。ただいま紹介いただきました北原であります。来賓の元会長の中で、年長者であるので、祝辞を述べるようにと言う仰せでありますので大変僭越ではありますが、一言お祝いの言葉を述べさせていただきます。

本日は、上伊那教育会の公益社団法人認定10周年、まことにおめでとうございます。早いもので、平成23年度に認定を受けて以来、何かあつと言う間の10年だったような気がしますが、その流れをみますと、私より後の会長さんをはじめ役員の皆様、事務局の皆様の大変なご努力と、いろいろな面での創意工夫により、全会員の協力と支援のもと、公益社団法人としての教育会が力強く歩まれ、大きな成果をあげてきていることに対しまして心からの祝意と感謝を申し上げます。

私は平成20年度に会長をさせていただきましたが、じつはこの頃から「公益社団法人化」の件が話題になってきました。それは、国の方から「公益社団法人の認定等に関する法律」が新たに発令されたからです。この法律によりますと、従来は認定に対する規定が非常に厳しかったものが、大分緩和され、教育会等も認定される可能性がでてきたからであります。

信濃教育会の常任委員会でも会長の方から「信教は現在公益法人化において、検討審議を進め、書類等も整備し、申請準備に入っている。各教育会におかれても是非この機会に、信教でもバックアップするので、進めてほしい」と言うことでした。

上伊那教育会でも、これを受けて理事会等でも検討しました。公益法人化によるメリットとして考えられたのは、

①公益社団法人という名称に対する社会的信用が高まる。

(従来の教育会は、同じ教員としての仲間があつまる、ただの任意団体として、広く社会から正式に認知されているとは言い難いものであった。)

②さまざまな税制優遇措置が受けられる(原則非課税)

こうした良さは、理解する一方、「公益社団法人化することにより、上伊那教育会が現在保有している大きな財産を手放さなければいけない状況が生まれるのではないか。」「会計予算の中で公益活動費が50%を超えなくてはならない等財政上の問題で相当な困難さが予想される。」「今までもこの形で問題なくうまくやってきているので、このままでも良くないか。」「急に出てきた問題なので、他の教育会の様子を見ながら考えていったらどうか。」等の意見もありました。

しかしながら、理事会での検討を進める中で、

○将来の教育会のあり方を考えた時、今まで以上に地域社会に開かれたものにしていく責務があること、教育に携わる者の団体として社会的信用が第一であること。

○信州教育をけん引してきた上伊那教育会の伝統からして、他の教育会の後からついていくのではなく、良いことであれば先んじて取り組んでいくべきである。

等の考えから、公益法人化に向けて早速に取り組むことを決定し、動き出したわけでありました。

当時、事務局長をしていた三輪先生には信教で行われる学習会や相談会に何回か参加していただき、理事会でもそれに基づきながら、検討審議をしてきました。

その後、21年度唐澤会長時、22年度内山会長時でも一層細部にわたり詰めていただき、23年度唐澤義雄会長時には、特に大変なご苦勞をいただき、関係書類を整備し申請して、年度末には正式に認定されたとお聞き



来賓祝辞 北原和俊 様

しました。

本日、10周年を無事迎えることができたのも、この時のご苦勞のおかげだと思っております。

今、教育現場は、いろいろな意味から、大変厳しい状況にあると思います。そんな時こそ先生方の心の拠り所になるのは、まさに上伊那教育会の存在があります。いままでの輝かしい伝統と成果の上に立ち、本日の10周年を機に、これからも公益社団法人上伊那教育会が一層充実発展されますようご期待し、愚辞ではありますが、祝辞とさせていただきます。本日は、本当におめでとうございました。

記念座談会

『 あれから10年 これから10年 』

～公益社団法人の意味と価値を見つめ直し、これからの教育会の在り方を考える～

コーディネーター 赤羽 隆 実行委員

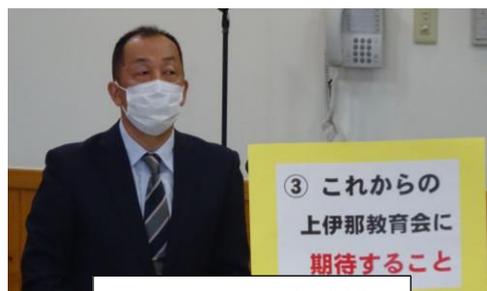
座談会メンバー 唐澤 義雄 平成23年度教育会長

矢澤 静二 平成24年度教育会長

平成27～29年度事務局長

白鳥 彰政 平成23～26年度事務局長

原 浩範 令和4年度副会長



赤羽 隆 実行委員



唐澤義雄 平成23年度教育会長



矢澤静二 平成24年度教育会長



白鳥彰政 平成23～26年度事務局



原 浩範 令和4年度副会長

《 お知らせ 》

記念式典・座談会の様子は、限定公開とした youtube でご視聴いただけます。
ケルン内に youtube へのリンクがありますので、そちらからアクセスしてください。
※直接 youtube でご覧いただく場合は <https://www.youtube.com/watch?v=EK1YJP-MQAw>

QR コード

